第4回富山市総合計画審議会　議事録

日時　令和8年 10 月 28 日(水)14:00～16:00
場所　ToyamaSakura ビル5階　大会議室

1.　開会

2.　議事
（1)第 3 次富山市総合計画　基本構想(案)及び前期基本計画(案)に対する答申(案)について

3.　意見交換

4.　閉会

【意見交換】

＜概要＞

委員　　「産業・雇用」分野で企業誘致という言葉が出てくる。産業・雇用分野で富山市の問題が何かを考えたが、Uターン・Iターン・Jターンなど外から戻ってこられるような環境が重要であり、大学進学で県外に出た市民が戻ってきたくなる職場が富山には少ないと感じている。幸せな生活は職業の安定が前提になり、大学進学も増えてきている中で、戻ってくる職場がないと幸せ日本一のまちにはなれないのではないか。少子高齢化もあり、女性が県外に出ている中で、そうした県外に出た人が戻ってくる環境が必要である。そのためには大きな企業の誘致が必要であると考えられる。

委員　　部会の議論や調整部会の議論を踏まえ、内容が十分盛り込まれた答申案と計画だと思う。

答申案4ページの総括的事項の4つ目で、「取組の進捗を測る主な指標等を活用し、政策・施策の進捗や成果を適切に把握するとともに、必要な見直しを実施していくことが重要である」と明示されている点が非常に意義のあることだと思う。この指標が最終的な成果を図るために適切であるかの検証プロセスが必要になると思うので、是非実施いただければと思う。その検証を通じて、この計画の実行により各分野の目標や成果を達成できるか、その指標がつながっているかが見えるのではないか。答申では計画の進捗を検証しているが、進捗のみの検証ではなく、成果に結びついたかどうかの検証により、次期計画を策定する際にもどのような指標が必要か参考になるのではないか。

委員　　部会の議論内容を丁寧に拾っていただいた答申案になっていると感じた。災害は増加傾向にあり、人口減少をはじめ社会課題が複雑化していると思う。こうした様々なリスクを乗り越えて、もっと豊かに、幸せに暮らせる富山市になるようにまとめていただいた内容だと思う。この計画に基づいて、より良い市政につながることを期待している。

委員　　議論や提案した内容が反映されており、全体として良いものができていると感じている。先日、要保護児童の関係で会議に出席したが、子どもの数は減少しているにも関わらず虐待を受けている子どもが増えていると話題になっていた。計画案にも支えあいによる福祉の充実ということで、課題を抱える市民への包括的支援対策の整備で老々介護やヤングケアラーの記載があるが、水面下で発生している問題を認識し、具体的に事業を実施していくことによって、実効性のある計画になると思う。

委員　　観光推進はなかなか進まず、課題解決に直接寄与する有効的な案の検討も難しいが、富山市独自のPRを重ねていければと思う。

農林水産業は市民の生活に直結する課題が多くあり、人材確保や経営環境整備が重要となる。市と連携しながら基盤整備が重要だと思う。

観光交流や文化・芸術は難しい部分があるが、観光は富山市に限らず、各方面への観光案内も必要になっており、横連携が重要になってくると思う。文化・芸術も一朝一夕の取組ではなく、長い期間で環境づくりや意識の高揚が必要になると思う。

委員　答申案にはコンパクトシティ政策の深化とICTの活用、レジリエンスの向上が記載されている点は評価したいと思う。その上で、人口減少は個別の課題として捉えるのではなく、相互に関連する都市政策として捉えることが重要だと思う。特に公共交通を軸とする拠点集中型の都市構造は平常時の利便性や効率性に加え、災害時の都市機能の継続や交通ネットワークの確保といった観点も重要であり、今後、答申に沿って具体的な施策を展開される際は、都市政策と防災政策の連携を十分に意識していただければと思う。

また、平成 17 年の合併以降の市史の編纂に向けて、資料収集や専門部会の設立などの準備が必要な段階ではないか。既に同時期に合併したいくつかの自治体では、合併後の市史編纂の取組を始めた自治体があると認識している。市史編纂を総合計画に位置づけるかは別途ご検討いただきければと思うが、実務上は資料の収集・整理などを進めるべきではないか。特に市町村合併協議時に尽力された方々が少なくなってきていると思うので、準備作業についても検討いただければと思う。

委員　市民の皆様が最も関心がない分野が林業分野だと思っている。農業のように毎年収穫や収益があるものではないが、林業は、自然災害抑制や有害鳥獣対策に寄与するものである。里山を明るくして守っていくことが今後必要だと思う。

委員　答申案の感想だが、効果的な情報発信や選択と集中という言葉が心に残った。本件は議決すべき事項として大変重要な業務だと思うが、事務局の皆様には引き続き健康等に留意しながら取りまとめをお願いしたい。

委員　交通指導員をしている関係上、子どもたちの登下校の安全を気にしている。ある日、通学路ではない道を歩いている子どもに対して正しく注意すると翌日から挨拶をしてくれるようになった。こうした活動は防犯活動としてもいい点であると感じている。

委員　全体的な印象として、委員の意見が反映された答申・計画になっていると感じている。答申案の7ページ目に里山や森林の保護に関する記載があるが、資源保護や環境保護も含めるとより良いのではと感じている。

産業・雇用に若者の地元定着に関する記載があるが、富山市外の住民は

対象外と捉えられかねないと感じた。UターンやＩターンなどで県外からくる人が外から違う視点を持ってきてくれることもあると思う。そうしたニュアンスが伝わる表現になると更に良いと思う。

産業・雇用で、若者にも魅力的な産業の育成、新たな産業の創出に含まれているかもしれないが、若者に富山に住んでもらうための方策として、富山市に住みながら、県外の企業にリモートで働いてもらう取組もあると思う。以前も共有したことあるが、鳥取県のように県内にいながら県外の企業で働く選択肢もあると思う。

委員　意見が反映され、全体を眺めていても従来にはない形でまとめられた計画だと感じている。最初に幸せ実感や未来スケッチという言葉が出てきて、それに結び付ける形で 14 分野設けて体系的にわかりやすく、バランスの良い内容になっている。何より分野横断の重点テーマを設定されている点が素晴らしいと思っている。これまでも個別の部署が取組を進めているとは思うが、横断テーマは増えていると思う。官民問わず、組織が大きいと横断での取組は非常に難しいと思うが、取り組む意欲が答申に記載されているのが重要であると思う。

答申案の総括的事項の2つ目が富山市の特徴が表れている部分だと思う。分野横断重点テーマに記載がある「安全・安心を支える防災力の強化」を答申の中にも盛り込めないか。これからの 10 年も災害は増えてくると思われる。災害への対応は行政がやらざるを得ないと感じている。

委員　富山市だけではないが、人口減少にあたって様々な課題を抱えている。社会インフラに関して、このまますべてのインフラの維持は難しいという課題に対し、選択と集中により維持を進めていくと方針が示されている。この点はもう少し踏み込んで記載してもよいのではないか。

厳しい現状もあるが、心躍る、ワクワクするような計画になれば良いと感じている。

委員　答申案に記載のある本格的な人口減少がすべての根本にある課題だと議論してきた。都市交通分野でも人口減少の緩和に関する政策はあるものの、適用に関する政策が弱く、部会の中で率直に議論させていただいた。

都市交通では公共インフラを人口減少の中でどのようにマネジメントしていくか、非常に地域住民の方々の合意形成も含めて、難しい分野だったが、議論を重ねて計画の中に盛り込んでいただいている。結果として人口減少の緩和と適応がバランス取れた計画になっていると思う。

計画について、若者を含めた次世代を担う方々に情報発信を行い、浸透を図ることが重要だと思う。是非そうした取組もしていただければと思う。

委員　　9月末以降、富山市の国勢調査改ざん問題が報道されており、市民の行政に対する信頼が揺らいできていると思う。この総合計画を策定し、議決し、実施に移していくタイミングでこの問題に対する姿勢が問われているのではないか。そのためには1つ目に信頼回復に努めること、2つ目の計画の実施に際して市として強い姿勢をアピールすること、3つ目は従来にも増して市民との対話を重視する点をお願いできればと考えている。

1つ目の信頼回復に関しては、本件は自らの組織で明らかになったものではなく、総務省から指摘があり問題が発覚している。組織内部で業務に潜むリスクを評価し、コントロールする制度を確立いただきたい。

2つ目に関しては分野横断の重点テーマに人口減少が記載されているが、人口減少が最も重要であり、他のテーマや市民生活や経済に大きな影響を与える内容である。是非全部局横断のタスクフォースを組んで取り組んでいただきたい。

3つ目に関して、対話重視を前提に、わかりやすい概要版を作成し、計画配付時に市民に対して説明会を実施していただきたい。富山市には地域密着型の地区センターが 75 か所あり、大いに活用いただきたい。

委員　　答申案の中にも記載があり、本日、他の委員からも意見が出ている内容であるが、働く場所は非常に重要であると思う。企業誘致も非常に重要であるが、今ある企業の育成も重要だと感じており、答申案に記載されている点は評価したいと思う。富山市が若者を中心に選ばれる市になり、幸せに暮らしていくためには働く場所の育成が必要である。若者だけでなく色々な人が働きやすく、持続可能に働けるように、労働団体も協力するが、是非行政も計画に記載された内容を具体的、効果的な施策に展開していただくことを期待したい。

委員　　総合計画案・答申案を通じて、富山市が自治体としてどのように市民の生活や暮らしを守っていくという使命を果たすに当たり、各分野でバランスが取れてまとまった内容となっていると思う。

一方で富山市ならではの取組という点で市民に刺さる政策も深めていただければと思い、コンパクトシティからスマートシティへの転換、スポーツを軸としたまちづくりなどが象徴的な取組だと考えている。コンパクトシティからスマートシティについては更に具体的な解像度の高い取組を推進していければと思っており、一層行政の皆様には分野横断的な旗振りをお願いできればと思う。

スポーツについても「する、見る、支える、つながる」の4つのキーワードで、スポーツ協会が推進する競技力の向上やスポーツを通じたまちづくり、交流人口拡大などにも言及されている。スポーツを軸としたまちづくり

についても是非取り組んでいただければと思う。

委員　　部会に参加させていただき、大変勉強になった。この総合計画の実施にあたり、まずは富山市職員の皆様が取組を推進されると思うが、労働組合としては働き方が心配になるところでもある。職員に限らず富山市に関わる全員が当事者意識をもって取り組むべきだろうと思っている。

先ほどから企業の話が出ているが、富山市には多くの企業や優れた技術を持つ企業があるので、そういった発信も含めて協力していければと思う。

委員　　各部会の議論が反映された優れた計画になっていると思う。総合計画という膨大な情報を扱う計画をいかにわかりやすく伝えるか、現行の総合計画に比べて非常にわかりやすい表現になっていると思う。

社会課題も複合的になる中で、先日の調整部会で発言させていただき、答申の結びに「分野横断重点テーマをはじめ、複数の分野にまたがる課題については、各分野の施策と連携を図り、効率的に取り組まれたい。」と追記をいただいた。行政というと縦割りの代名詞のようになっている。縦割りが合理的だった時代もあると思うが、社会課題は非常に複雑化しているため、今は縦割りが不合理な可能性もあると思う。

合理的かつ効率的に行政を進めるには行政内の各部局や部署間の連携が非常に重要だと思っている。組織文化を変えるのは難しいと思うが、今回幹部の方々も出席されていると思うので、今後部局間の連携を強めていただいて、複雑な社会問題に対応していただければと思う。

委員　　審議会や部会を通じて出された意見が反映されたものになったと感じている。答申案も出た意見やポイントを押さえて整理されていると感じている。

一連のプロセスで感じた点として、出来上がった計画には市民の思いが言葉遣い1つひとつに落とし込まれていると感じている。重要なのは答申案に記載のある事項に加え、これまで審議の過程で示された意見が施策や事業となり、実施されていくことだと思う。ここで議論した内容が形になったと実感できればと思う。

委員　　総括的事項として4つの柱が建てられ、1つ目に人口減少について掲載されている。この人口減少の問題があらゆる分野に影響を及ぼすとして記載されている点に大いに賛同する。また、この基本構想や基本計画が今後の富山市のまちづくりの指針として適切な内容である点も大いに賛同する。結びに記載されている内容の達成に対して、協力していきたい。

委員　　計画・答申を見ると審議会で議論した内容が計画に反映されていると考えている。今後計画や構想をどのように活用するかが重要であり、策定し

たからには行動する必要があると思う。行動に移す際には市民にどのような幸せを感じてほしいか、行政の皆様には是非想像していただきたい。民間もこの指針を基に市と連携して様々な事業を実施していければと思う。幸せなまちの実現に対して、力になっていきたい。

委員　　人材・暮らし部会で話している内容が盛り込まれている計画になっていると感じている。自分自身としても議論を重ねる中で知らない単語もたくさんあったが、勉強させていただいたと感じている。

答申の3ページに記載があるとおり、必要な見直しの実施が重要であると思っており、立派な計画が策定されても実行されなければ絵に描いた餅になり意味がないと思う。住民の声を聴いていただき、住民に寄り添いながら計画を進めていただければと思う。

委員　　これまでの取組が成果としてまとまっている点を嬉しく感じている。委員の活動を通じて自分自身の学びにもなり、横のつながりもでき、今までの生活になかった視点が得られていると感じている。

答申2ページ目の空き家・空地の増加について記載があるが、空き家・空地を効果的に活用できればと考えている。自身の住む地域ではカフェが開かれており、訪れると目が見えない方や学校の先生だった方、事故にあいリハビリ中の方など、多様な方が参加していた。他の地域でもこうした身近な場で地域コミュニティに参加できる仕組みができればと思う。

最近は4人に1人がDVの被害にあっていると聞いたことがある。そうした被害にあった方々が安全・安心に囲ってもらえる場所やシェルターが必要だと思う。空き家・空地を活用して、地域でそうしたシェルター機能を果たすことも検討の余地があると思う。

スポーツに関して、先日住民運動会に参加したが、高齢の方や障害がある方など多様な方々が参加していた。子どもから高齢者まで参加でき、障害の有無に関わらず参加できるような機会をスポーツ協会や行政と一緒にできればと思う。

文化・芸術に関して、南砺市で見た獅子舞が富山市の旧八尾町で子どもの頃に見たものと同様だった。八尾町の獅子舞は廃れてしまっているが、周辺の地域には同様の文化が残っていることもあると思う。富山市に限らず、周辺の地域と連携し、残っているものを引き合わせて、お互いに高め合っていければいいと思う。

委員　　これまでの議論・意見を取りまとめて反映していただいたことについて感謝したい。計画の基本構想で市民の幸せ実感が記載され、市民の実感に視点を向けて考えられたのが非常に素晴らしいことだと感じており、今後も大切にしていただきたいと思う。計画の指標の中でも事業の実施状況や

利用者といった定量指標のみではなく、市民の意識といった定性指標も多く設定されていたと思う。5年後検証される際にはアンケートの数値だけではなく、市民や子どもの声、市民の暮らしや実態も聴いて検証していただければと思う。

審議会やパブリック・コメントを通して子どもに対する期待が非常に大きいと感じている。現役世代が子どもに準備できる教育や体験が非常に大事であると感じている。子どもが自分自身が大切にされている実感や、自分が過ごしているまちをポジティブに思えるかが重要だと思う。今回の計画では「まち」と「ひと」の両輪が回ると表現されているが、まちや大人の姿が変化し、子どもの思いも変化があれば良いと思う。

今後実施計画や個別計画で具体的に施策が実施されると思うが、富山市のこれまでの理念や考えを引き継ぎながら、5年後、10 年後の幸せ実感につながることを期待している。

委員　審議会に参加させていただき、感謝申し上げたい。答申案に記載がある通り幅広い世代に情報発信をしていただければと思う。PTAで活動している中で、どのように事業の内容を発信するかを悩みながら過ごしており、情報発信は簡単ではないことも認識しているが、富山市にはこうした計画があると一人でも多くの方に知ってもらえると見方も変わってくると思う。

委員　答申を見た際に、行政がどれだけできるか、行政に任せてよいのか、期待して良いのかと感じた。この 10 年で発生しうる想定外のトラブルや子どもへの対応など、様々なことを考えていただいたと感じている。

総括的事項については行政の限界を記載されていると個人的には理解している。先ほど選択と集中という言葉について言及があったが、決まっていないことを暗く発信するより、そうした危機感を市民と共有しながら市政を進める 10 年になると思っている。

委員からも意見があったが、計画倒れになってはならないという点が審議会の総意だと感じている。審議会に関わった者としてどのように手助けできるか、それぞれの団体でフォローしていければと思う。市も困った際には今回出席している団体を頼り、お願いをすればよいのでは感じている。これまでの意見や議論を参考に作成された答申案と総合計画について、良いものだと思っており、修正を加える予定はない。これまでに出た意見は実施計画の中でも考えていただければと思う。

（以上）